

Fledgeロンパース 作り方



■こちらのパターンは、布帛作るベビーロンパースです。

薄手のニットでも作れますが、その際は前見返しとマチ見返しに布帛用の接着芯を貼ってください。

■かぶりタイプですが肩・胸周り・足周りがゴム仕様のため小さな赤ちゃんでも着脱しやすく、股下はスナップで開閉出来るのでおむつ替えも楽々です。

■すべて縫い代込みとなっておりますので、切り取ってそのままお使いいただけます。脇部分に使用するバイアス布は寸法のみ記載となりますので直裁してください。

■「わ」の表記と指定の数字が記載されている箇所以外は縫い代1cmで作製しています。

■ロックミシンの併用を推奨しますが、家庭用ミシンのみでも作製できます。説明文にある「端を処理します」とはロックミシンorジグザグミシンで端をかがることです。

※ こちらのパターンを使用して作られた作品については、委託販売・ネットショップ・オークション等、個人の範囲内に限り自由に販売していただいて構いません。
※ パターン及び仕様書自体の中古販売・複製販売は、固くお断りさせていただきます。ご理解、ご協力の程宜しくお願い致します。

★出来上がり寸法(cm)

	60	70	80	90
総丈	41	45	49	52
身巾	21	22	23.5	25
ヒップ	36	39	43	46

※出来上がり寸法は型紙を計測したものです。

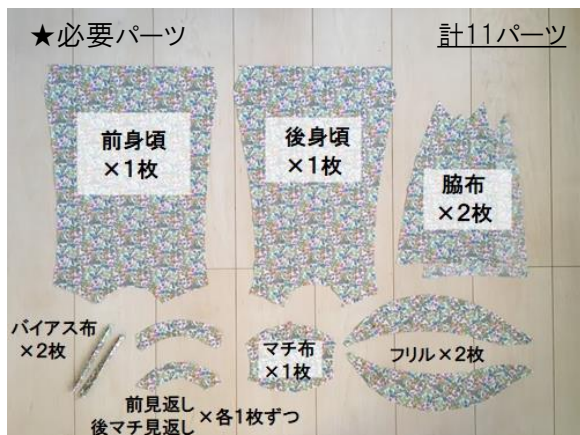
★必要用尺(cm)※110cm幅

	60	70	80	90
身頃生地	50	60	70	80
前身頃ゴム	12.5×2本	13.5×2本	14.5×2本	15.5×3本
後身頃ゴム	12.5×2本	13.5×2本	14.5×2本	15.5×3本
肩ゴム×2本	7	8	9	10
裾ゴム×2本	21	22	23	24
バイアス布	4×13	4×14	4×14	4×15

※生地の上方向・柄合わせがある場合はこれより多めに用意してください。

用意するもの

- 推奨生地…ローン、Wガーゼ、シーチング、ブロード、リネン、ビエラ、シャツコーデュロイ等の薄手～中薄生地
- 接着芯…薄手の伸びないもの
- 6コールゴム…ソフトタイプがおすすめ
- スナップボタン…★60・70・80サイズ…3組
★90サイズ…4組



準備

- ★全てのパーツに合印を入れておく。
- ★指定の長さのバイアス布を真ん中に向けて両側から折り、さらに半分に折ってアイロンで押さえておく。
- ★前見返しと後マチ見返しに接着芯を貼っておく。

縫い方手順



1. 前後身頃の、型紙に記載した折り返し位置で裏側に折り返し、指定の位置にステッチをかけます。



2. 一番上の段はフリルになるのでゴムは通さず、2段目以降にゴムを通し両端を縫って仮止めしておきます。後の工程を進めやすいよう、真ん中にギャザーを寄せておきましょう。



3. フリル布は巻きロックか三つ折りで端を処理します。三つ折りの場合は5mm幅で2回折り返し、アイロンで押さええます。



4. 折り返した端の1mm内側にステッチをかけ、端を三角に切り落としておきます。



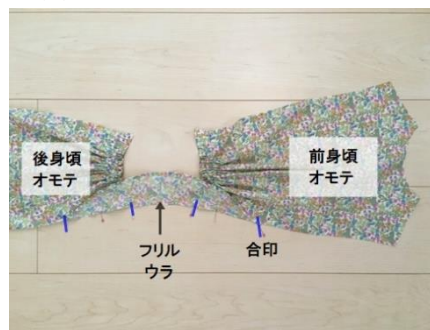
5. 次に、脇布のカーブしている部分にバイアス布を中表に合わせ、端から9mm位のところをカーブに沿って縫い合わせます。



6. 脇布を裏に返し、先程の縫い線が1mm位隠れるように縫い代をくろみます。(しつけをするか、まち針や手芸用のりを使って仮止めしておくとうずれにくくなります)



7. また表に返し、端から1mmのところにステッチをかけます。脇布へのバイアス付けは以上です。



8. 各パーツを縫い合わせていきます。身頃端の合印、フリル止まりの合印をそれぞれ合わせながら、前後身頃と中表になるようフリル布を合わせます。(ずれが心配な場合はここで仮縫いをしておきましょう)



9. その上に前身頃と中表になる向きで脇布を重ねます。こちらも合印はしっかりと合わせます。



10. 脇布のもう片方の辺を、後身頃と中表になるよう合わせます。この時、前後身頃がそれぞれ脇布に対して中表に合わせられている状態です。



11. 脇布～フリル布～脇布までぐるっと縫い合わせます。途中でフリル布のみになる箇所がありますが、そのまま縫い進めます。反対側も同じ工程で縫います。※家庭用ミシンのみの場合はフリル布のみになる手前で縫い止めます(前後とも)。フリル布を含めた端を処理します。

縫い方手順



12. フリル布の内側部分を1cm折り返し、アイロンで押さえます。



13. アイロンで押さえた部分を開き、肩ゴムの端を前身頃端より7mm位下のフリル布側に縫い付けます。そのとき、なるべくアイロンで折り線を付けた側ギリギリになるように寄せて付けます。そのゴムの反対端を後身頃側のフリル布にも、ねじれないよう同じように縫い付けます。



14. 先ほど開いた部分をまた折り返し、付けた肩ゴムを包むように伸ばし入れながら、折り端から1~2mm位の部分を反対端まで縫います。縫い始め、縫い終わりは身頃端から1cm下の部分です。ゴムと一緒に縫い込まないように注意しましょう。身頃上部の工程は以上です。



15. ここからは股部分です。前見返しは外側カーブ側、後ろマチ見返しは内側カーブ側にそれぞれ端処理(空ロックorジグザグミシン)をしておきます。



16. 後ろ身頃とマチを中表になるよう縫い合わせ、端を処理します。縫い代はマチ側に倒しておきます。



17. 前裾~マチにかけて端処理(空ロックorジグザグミシン)をしておきます。



18. 前身頃と前見返しを中表に合わせ(この時、見返しと裾は1cmずれている状態)、端を縫い合わせます。縫い代になるべく細かく切り込みを入れ、半分に切り落とし、表に戻してアイロンで整えます。



19. 今度はマチとマチ見返しを中表に合わせ、赤の点線部分を縫い代1cmで縫い合わせます。角を三角に切り落とし、カーブ部分の縫い代を半分に、見返し側面は見返しのみ縫い代を半分に切り落としておきます。※写真では接着芯を貼る場所を間違えています。紛らわしくすみません。



20. 後ろマチ見返しを表に戻してアイロンで押さえ、マチ~前身頃まで裾を1cm折り返しアイロンで整えます。前は見返し部分の上にかぶせるように折ります。

縫い方手順



21. 後ろ見返しの下に5mm程ゴム端を入れ込み、ゴム端と一緒に縫い付けるように見返し端にステッチをかけます(左右とも)。
 ※その時、ゴムの上を何度か返し縫いしていただくと抜けにくくなるかと思えます。



22. 前見返しの端から5mm程の所にゴム端をかぶせ、一緒に縫い付けるように見返し端にステッチをかけます(左右とも)。
 ※こちらもゴム部分を返し縫いしておくとう良いです。



23. 先ほどアイロンで折った裾を再び折り返し、端から1~2mm程の所をゴムを入れ込みながら前~マチまで縫い合わせます。
 左右とも同じように縫い合わせたら、引っ張った際にゴム端が抜けないか、裾端と共にゴムまで一緒に縫い合わせていないか確認してください。



24. パターンに記載のスナップボタン位置にボタンを付けたら完成です。
 お疲れ様でした♪